

文学部の新たな挑戦

細 越 淳 二

【はじめに】

今回、文学部が創設五十周年を迎えました。先ほど、記念式典が厳かな雰囲気の中で、また在学生の力も借りながら進められたことに、まずは安堵しております。また引き続いて行われた記念シンポジウムでは、文学部卒業生の皆さんの話から、本学部で培われた力が間違いなく社会で生きているということを実感できました。

先ほど、佐々先生から文学部のこれまでにについて、史料を踏まえて丁寧にお話をいただきましたが、私からは「文学部の新たな挑戦」と題して、文学部の歴史を簡単に確認するとともに、いま私たちが考えている文学部のこれから、つまり文学部の新たな挑戦の概要について、話をさせていただきます。

【文学部のこれまで】

文学部は、昭和 41 (1966) 年に創設され、その後、3 学科 8 専攻体制が整えられ、教育研究が行われるようになりました。先ほどのお話にもありました通り、我が文学部は、非常に多彩な学問領域を抱える学部として教育研究を続けて参りました。これまでの卒業生の人数は 19,047 名。社会を支える人材として多くの卒業生を送り出してきました。「人づくり」の伝統を守り、半世紀にわたって積み重ねを行ってきたということになります。

そのような中、近年、人文系学部を取り巻く状況は厳しさを増してきております。例えば、ある物差しに照らして実用的な学問領域かそうでないかという視点で人文系学部の必要性が議論されるとともに、人文系学部縮小の動きも大きく報道されるなど、全国的な話題となっています。受験人口の減少や入試方法の変更等もあいまって、今後、大学及び人文系学部がどのような姿になっていくのか、なっていかなくはないのかについて、検討が急がれています。

そんな中、私たち文学部では、これからの社会における学部の在り方として、どのような姿が望ましいのか、在学生の「夢」を叶える学部の姿とはどのようなものなのか、どのような人材育成をすべきで、私たちに何ができるのか等、多くの点について、教員がチームをつくり、真剣に議論してきました。同時に、その学部やカリキュラムの下での教員の配置等、現実的な問題についても切り込んで

話し合いを続けてきました。

【文学部の新たな挑戦】

○専攻から学科のまとめりへ

そのような議論を踏まえて、現在の専攻から学科としてのまとめりを意識した学部構成への移行と、その場合、教育学科は「即戦力としての実践的指導力量を有する人材（教員）の育成」、史学地理倫理学科は「時間的、空間的及び思考の広がりとその意味・価値を理解して生かすことのできる人材の育成」、文学科は「我が国の文学や文化に精通し、それらをグローバル社会で生かすことのできる人材の育成」といった形で学科の姿を見通すことができるのではないかと考えました。これが文学部の新たな挑戦のファーストセットになるのではないかと、現状、私はとらえております。

○学部学科構成の基本方針

また、学部の立ち位置を明確にすると同時に、学生の卒業後の進路を見通して、学部の基本方針として、次のことがらを検討しました。まず、3学科体制を維持し、これまでの各学科専攻における教育研究の積み重ねを生かした安定的な学科運営を目指すということです。そして教職課程の一層の強化ということで、

- ①教育学科の中等教育課程と初等教育課程への整理
 - ②史学地理倫理学科における公民免許の取得
 - ③特別支援学校教諭養成課程の新設
 - ④諸資格の充実
- を考えました。

具体的に見てみます。まず①教育学科の中等教育課程と初等教育課程への整理についてですが、今後、教職課程についても、学科の位置づけと免許種別の相当関係が益々重要視されることが予想されております。そのような中で、中等教育と初等教育のそれぞれの専門的・実践的指導力量を有する教員を育成するという方向性を明確にすることが求められていることから、学科の構成を整理することとしました。次に②史学地理倫理学科における公民免許の取得についてです。現在、史学地理学科の学生は公民の免許取得が叶いませんが、教職志望の学生にとっては公民の免許も非常に重要な意味を持ってきます。そこで、史学地理倫理学科にすることから、史学及び地理の学生も公民の免許取得が可能になる道を拓いてはどうかと考えました。続いて③特別支援学校教諭養成課程の新設です。先般、全国の普通学級の教室に、特別に支援を要する児童生徒が6%前後在籍しているという報告がありました。また教員採用試験に合格した学生の赴任先を見ても、初任地として特別支援学校あるいは特別支援学級の担当を任されるケースも増え

てきています。加えて、それらの初任地に配属された卒業生の声を聞いてみると、在学中に特別支援教育について深く学んでおけばよかった、というものが少なくないことから、現代的な教育ニーズに即応しうる教員の養成をめざし、教育学科に特別支援学校教諭養成課程を新設する方向で準備を始めているところです。そして④諸資格の充実です。図書館関連の整備充実及び資格の改編等、社会や学校において益々諸資格の重要性和広がりが増してくることが見通される中、本学部においても、学生の学びや進路につながる諸資格課程の充実を目指そうということで、準備が始まっています。

以上、各学科において、これまで以上に専門性溢れる教育を充実させることと、資格課程の充実を目指すことから、学生の進路選択の幅を広げ、文学部での学びがより社会につながっていくことを志向しようとしています。

【おわりに】

この間、私たちは、このように文学部の新たな挑戦の姿を描いてきました。最終的な形は、引き続き行われる検討の結果ということになりますが、しかし、学部のこれからを見通した時、なんと言っても大切なのは、ここにいらっしゃる先生方や学生さんが、それぞれの目標に向かって、生き生きとまさにアクティブに活動している姿が「見える化」されることなのだろうと思います。我が文学部には、まだまだ素晴らしい人材や財産があるように感じています。みんなで生き生きと動き出す、動いている姿が見える文学部にしていくことが、私たちが検討してきた21世紀の社会で活躍しうる「人づくり」を進める学部、人材育成に直結することになるのだろうと思います。これからも走り続ける国士館大学文学部をめざして、学部一丸となって頑張っていきたいと思っています。ご清聴ありがとうございました。

*本項は、平成28年10月29日に行われた人文学会シンポジウムにおける報告を書き起こす形で構成しました。